

# カウンセリングこうべ

神戸カウンセリングセンター

代表 仲東 茂

事務局 本川 清裕

Tel. 090-3867-6393

〒653-0841 神戸市長田区松野通1-4-14

郵便振替 01190-2-17712

H.P. <https://kobecc50.wixsite.com/kobecc/blank-1>

2017年 小山良三先生追悼号

2017. 9. 1. 発行

## 小山良三先生の思い出

仲東 茂

神戸カウンセリングセンター設立当初から、様々なご支援とご指導を賜ってきました故小山良三先生にセンター会員一同を代表し、哀悼の意を表したいと思います。本当にありがとうございました。

私は、今から十数年前神戸カウンセリングセンターで学習を始めました。その頃、新春カウンセリング学習会において小山先生は世話人をされていました。何もわからずに小山先生のグループに入ったのが最初の出会いです。そのとき、京都の河原さんからいろいろなことを教えていただきました。その河原さんは毎回小山先生のグループに入っていたようです。

非構成のグループの中で、私は自分自身のことがよくわからずもがいていたように思います。自分の心の核になるものはどんなものだろうか。玉ねぎのように自分の皮を一つ一つ剥がそうと思っていました。今となってはそのようなものは見つからないと考えるようになりました。人付き合いが苦手で自分の世界にこもりがちな私であったのかと思います。

グループワークでは、自分の気持ちを尊重しながら自分を振り返ることとは程遠く、自分なりの理屈や理論を振りかざして、ええカッコウをしていたようです。グループの人の気持ちを感じることはほとんどできなかったように思います。分析的に自分の心を探ろう探ろうとしていた私がありました。私が話すとき、小山先生はじっと聴いて下さっていましたが、お顔は厳しいように感じました。私は「いまここの気持ち」を話すのではなく、自分の頭にある考えをしゃべっていた感じです。小山先生は「仲東さんは何が言いたいのかな」と問われました。多分の自分の世界の中でぐるぐる回っている話なので、理屈に偏っていたのでしょう。そのとき、厳しい指摘をされる方だと感じました。

ワークの合間に河原さんと小山先生でコーヒーを飲む機会がありました。明石の中学校の教師をされていたこと、マジックミラーから観察できる部屋があったことなど興味深い話も聞かせていただきました。ある中学校の教師は自分の考えに縛られ何を言っても伝わらないもどかしさを訴えられていました。また、カウンセリングを担当されていたが事情があってやめた人が自殺したことがあると言われたとき、本当に悲しげなお顔をされたのを思い出します。厳しい怖いというイメージから心底やさしい方だと感じる機会でした。

ワークが進むにつれ、周りの人達がいまここの気持ちを語ることが増えてきました。私は

なかなか気持ちを語るまでいっていないようでした。あるとき、「仲東さんの気持ちは？」と問われたとき、私は自分の気持ちより考えの方が出てしまう性分だと感じました。なかなか心の蓋をあけることはできない私がありました。その当時心の蓋を開けるのが怖かったのだと今は振り返ることができます。

ファシリテーターはメンバーに媚びるのではなく、メンバーの心に真摯に向き合う姿勢が大切であると教えていただきました。



## 小山先生を偲びその教えは今も心に

河合 功子

カウンセリングの学習を始めて間もない頃、神戸カウンセリングセンターの新春カウンセリング学習会に参加し、小山先生のグループに入らせていただきました。その頃の先生は穏やかな中にも何もかもお見通しのような鋭い感覚を持たれ、「なるほど、なるほど」と思うことばかりでした。そして少しずつ私の学習が進み、赤穂ハイツのワークショップで世話人をさせていただくことになりました。その頃の小山先生はあごひげを少しのぼされ、ダンディな達人のようであり、また仙人のようなお姿が印象に残っています。その先生が嬉しいことに、新米の世話人で不安な気持ちを持っていた私のグループに加わって下さいました。その時は構成的エンカウンターグループにメンバーとしての参加でしたが、先生が本当に楽しそうな笑みを浮かべながら、グループ全体を見守り育ててくださったその優しさ、温かさを今も決して忘れることができません。

そればかりでなく、先生のお言葉で、私が今も座右の銘にしていることがあります。20年近く前のことになりますが、赤穂ハイツでワークショップの折に先生が講演をしてくださいました。講演の中で、「カウンセリングに携わる者は、その時感じた重たい暗い気持ちを引きずらないようにすることが大事である」というお話をしてくださいました。気持ちを吹っ切ることは決して薄情でも悪いことでもない、自分を保つために重要なことで、これはカウンセリングの極意であると教えていただきました。

私はいたって小心者でカウンセリングばかりでなく、日常生活でもしばしば気持ちを引きずってしまうことがあります。そんな時、いつも小山先生がささやきかけてくださるような気がしています。その教えは永遠に消えることなく私の心の中に生き続けています。日々の暮らしの中でも大切にしたいと思っています。

小山先生本当に有難うございました。どうかやすらかにやすみください。

### 〈お詫び〉

前号「2016年師走号」編集後記の中で、ご寄稿くださった福川泰代さんのお名前を一部分「福井さん」と表記しておりました。訂正させていただきますと共に、誤記を掲載してしまったことを心よりお詫び申し上げます。

## 三百歳が来た

土家 弘子

淡路島慶の松原で行われたワークショップの折のことです。小山先生、三木先生が垣花先生の車で行かれることになっていました。お節介にも、「よろしければ私の車でいかかですか」と声をかけてみました。

当日はまず垣花先生のお宅へお迎えに何うと、奥様が「わー助かったわ、心配で不安やったのよ。」と言って下さり、それから明石で小山先生と三木先生と合流し、四人でタコフェリーに乗り込み、明石大橋や海を眺めながら岩屋へ着き西海岸を南へと走りました。五色浜辺りで小山先生が「ここで降りたい。」といわれ、海岸へ降り綺麗な石を見つけたり、海水に触れたりしながら子どものように。

会場へ着くと、「わー三百歳が来た！」といわれ、私も三百歳の一員でした。

この度、小山先生の訃報を受けまして寂しくなりました。心からご冥福をお祈りいたします。

事務局よりお知らせ1

神戸カウンセリングセンター創設60周年記念

### シンボルマーク作成について

神戸カウンセリングセンターを象徴するシンボルマーク募集

応募条件：作成者は会員であることが望ましい。作成者が会員以外の場合でも、応募は会員がすること。

募集内容：①神戸カウンセリングセンターを象徴するものとしてふさわしいもの。

②未発表のオリジナルのもので、他の応募もしていないもの。

③親しみやすく、複製が困難でないもの。

応募締切：平成29年9月30日（消印有効）

※8月現在、まだ一作品の応募もありません。応募締め切りを延ばすことになると思われますので、期間が過ぎていても応募してみてください。

応募先：〒651-2143 神戸市西区丸塚1丁目25-55-401

本川 清裕 宛

## 事務局よりお知らせ2

### 1 会費納入のお願い

会費の納入をお忘れではありませんか？ 平成29年度会費納入がまだの方は出来るだけ早く郵便振替にてお支払いをお願いします。

記号番号 : 01190-2-17712

口座名 : 神戸カウンセリングセンター

金額 : 2,000円

**通信欄に、「平成29年度会費納入」と必ず記入して下さい。**

**なお、来年度より、会費が3,000となりますのでご注意ください。**

### 2 例会のご案内

原則として、毎月第2土曜日に開催

### 3 1日カウンセリング学習会・新春カウンセリング学習会について

(1) 1日カウンセリング学習会…平成29年12月2日(土)グリーンヒルホテル神戸

(2) 新春カウンセリング学習会…平成30年1月4日(木)～6日(土) (場所は同上)

ここ数年参加者が少なく、運営面で支障が出てきています。昨年度はワークショップの会計は赤字となりました。会員のみなさまのご協力をお願いいたします。

本年度は、予定していた3講座（「カウンセリング概論」「ロールプレイングⅠ」「フォーカシング」）が開講できております。ご協力くださったみなさまに心より感謝申し上げます。

## 編集後記

小山良三先生の訃報に接し、謹んでお悔やみ申し上げます。

今号は、当センターに多大な功績を残された小山良三先生の追悼号として、小山先生をご存じの会員の中から、仲東代表、河合さん、土家さんに追悼文を寄稿していただきました。

私（本川）は、約二十年前に当センターへ入会させていただきました。その時は谷口正己先生、垣花常信先生、荒堀浩文先生、そして小山先生が、四天王のようにセンターの運営を仕切っていらっしゃるように記憶しております。私も小山先生の講座を受けさせていただいたり、ワークショップで小山先生がお世話人をされたグループに入れさせていただいたりしました。とても個性豊かな発言をされていたことが思い出されます。先生ありがとうございました。ご冥福をお祈りいたします。

本誌は、会員の皆様のご協力によって成り立っております。ご寄稿依頼の際にはご協力をよろしくをお願いいたします。また、奮って原稿をお寄せ下さい。

（ 堀田百恵・本川清裕 ）